

A Graphical Tanka Magazine

THEME

夕刻

幾代

いらくさ

紗都子

都季

徳毛圭太

鳥海牧子

野比益多

ヒラタ

文月郁葉

むしたけ

うたたらば



0円
TAKE FREE

2010.11 vol.01

THEME

夕刻

短歌はもっと、自由になれる。

むしたけ	・・・ 03
紗都子	・・・ 05
文月郁葉	・・・ 07
野比益多	・・・ 09
幾代	・・・ 11
都季	・・・ 13
いらくさ	・・・ 15
徳毛圭太	・・・ 17
ヒラタ	・・・ 19
烏海牧子	・・・ 21
佳作集	・・・ 23
編集後記	・・・ 25

夕ばえにだけうまくい
く作戦があると聞かせ
て握る手のひら

むしたけ

神様が降りてくる時間に
僕らはちいさな祈りを捧げて
未来に明かりを灯した

あれは
そう

奇跡と呼べば奇跡

さよならもはじまりも
ひとまとめにして
すべてが赤く染まる時間の

オレンジの揺れる世界
ふたりの揺れる世界
それらはゆっくりひとつになって
またゆっくりと離れていく

波打ち際を歩くみたいに
あなたと生きたかったのです
寄せて引いてまた寄せる
会話のひとつひとつを拾って

乗りなれた助手席にい
て命まで君にゆだねる
やさしい日暮れ

紗都子



シーグラス何度夕陽を
浴びたのか傷つくこと
をわすれたように

文月郁葉

泣いても泣いても泣いても
遺伝子が恋を忘れないから
泣いても泣いても泣いても
私は恋する運命だ

逃げることもなく
あらがうこともなく
波にその身を委ねながら

私の名前を呼んだもの
あなたはきっと
海なのですね

わたしはきっと
幸せでした

終わりだと気付かずに
ふたたび一人になれたのだから

わたしはきっと
幸せでした

知らないということの
意味をあなたに教わったから

終わりになど告げずに沈
む曇天の太陽みたいなの
やさしさだった

野比益多

何匹の鬼転げ出る夕暮
れのコスモス畑揺らし
て呼べば

いらくせ

たしかにそこにいた
たしかに笑っていた

記憶の海を泳ぐとき
悲しみがざわめくのは
なぜでしょう

あなたのことを思うとき
未来がざわつくのは
なぜでしょう

夕焼けに伸びていく影
いつの日か大人になる
のは知っていたけど

都季

一歩前に進むとき
何かが一歩後退する

プラスもマイナスも
すべてを内包するこの体で
生きていくしかないのだから

摂理
と呼べばあまりにも残酷な
未来を歩いてゆくのでしょうね

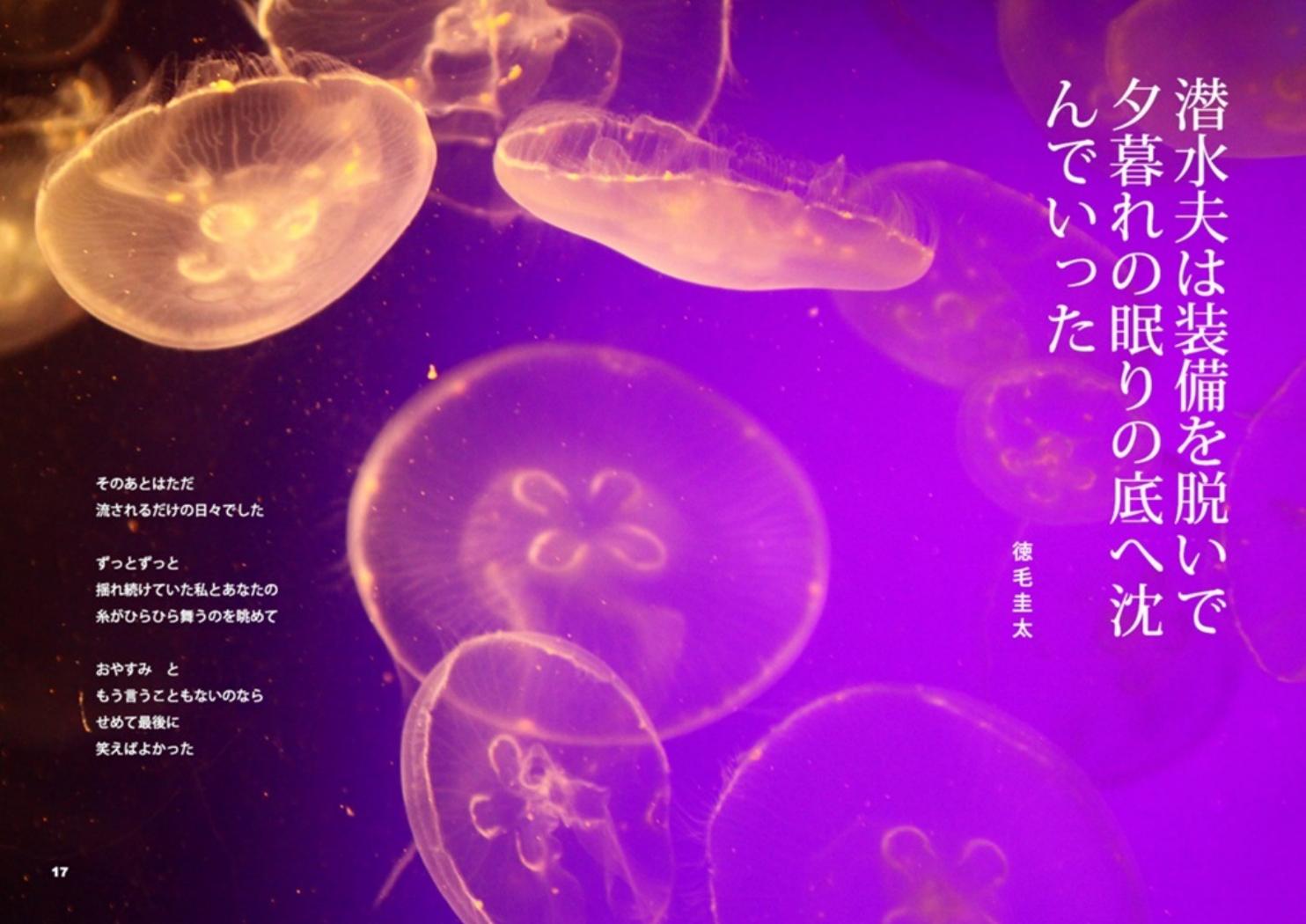
悲しみを捨てにくると
うこの海に沈む夕陽は
すこし大きい

幾代

すべてを遠視したかのように
最後にあなたは微笑んだ

それが強がりだったとは
私が気付くはずもなく

恋がまぶしすぎたのは
もう粉れもない事実だから
私は私でいることで
あなたの影を沈めてみます



潜水夫は装備を脱いで
夕暮れの眠りの底へ沈
んでいった

徳毛圭太

そのあとはただ
流されるだけの日々でした

ずっとずっと
揺れ続けていた私とあなたの
糸がひらひら舞うのを眺めて

おやすみ と
もう言うこともないのなら
せめて最後に
笑えばよかった

小さな約束を紡いで
今日と明日をつないでいました

何かに追われるように
何かに惹かれるように

私とあなたの
接点ばかりを見て
私はあなたに
何を求めていたのでしょうか

夢の終わりはいつも唐突
言葉ばかりがリフレインして

さよなら夢の鯨が群青
を泳ぐ 明日も良い日
でありますように

ヒラタ

黄昏のひかりに包まれ
歩いてた どんどん出
逢って忘れてゆこう

鳥海牧子

風だって
過ぎてしまえば過去のもの
夢だって
醒めてしまえば過去のもの

嘘みたいに晴れた
空が教えてくれました

あなたは海で
光で風で嵐で夢で
そして最後は
大空でした

音もなく生まれた秋と交差する
ようにカラスが咽ふ「あいたい」(こゆり)

取り返しかめ夕暮こわれゆく
それでもきみは恋するんだね
(たえなかず)

黄昏に気配濃くなる月のよう
にほのかに浮かぶ君の輪郭
(紗都子)

夕暮れはこのさびしさと一緒
です。赤く滲んで、色濃くなつて。
(川瀬のみ)

茜さす空を見上げて僕たちは
影絵のように一つになろう
(纏字写楽)

懐かしく話せるようになった
二度目の失恋に気付く夕刻
(佐倉さき)

夕暮れの川の水面に影落とす
私を通り過ぎるのは誰

(飯田和馬)

境界を保ったままで夕間に溶
けゆく影は重ならずいる

(中森つん)

夕暮れのペランダに立ち発つ
鳥を見送る君の小さなお尻
(とびやま)

どこまでもあなたの影はまっ
すぐで、そういうところが大
好きだった (龍翔)

めらめらと妖しく燃える夕焼
けを狂ったように飛ぶカモメ
たち (いとうゆみ)

9月2日 真っ赤に染まる空
の下 きょうもあなたが大好
きでした (Yuko)

陽が落ちる音に合わせたス
テップで二人の距離が縮まっ
ていく (わたたかし)

くちびるが離れたとたん連れ
てくる せつなさすららにじ
む夕焼け (うらら花)

竹富の火の見やぐらの夕刻を
あの娘とあの娘の彼氏にゆず
る (空音)

一日中あの櫓が続いたらきつ
とそれぞれ死んじゃうだろう
(さかいたつろう)

夕風のなかくしゆくしゆと確
かめるおまえの髪がおぼえる
夏を (むしたけ)

影が伸びてもあなたとの身長
差 縮まらなくてもどかし
かった (yukiduki SKR)

夕間のせまる縁側端居する二
人にそそぐ蜩の声 (螢子)

佳作集

編集後記

6月に発表した創刊号から約5ヶ月。賛同も批判も含め、たくさんの方にブログなどで取り上げていただきました。さらに、たくさんの方のご協力により、僕のいる大阪から遠く離れた場所で、この何の変哲もないフリーペーパーを配布させていただくことができました。だからまずは何よりも感謝を。本当にありがとうございます。

そして、今回のお題【夕刻】には、計85首もの短歌をお寄せいただきました。投稿いただける方がいなくなれば自然消滅する、うたらば、新作を発表できたのは、楽しみにしてご投稿いただける方あったことです。だから重ねて感謝を。ご投稿、本当にありがとうございました！

と、感謝してばかりのうたらば【夕刻】。選歌の難しさも体感しながらどうにか仕上がりました。この本が、少しでも多くの人目に触れることを願って。宣伝、よろしく願いたします（突

企画・構成・写真・誌面デザイン
田中ましろ

どちらかが悪いわけでは
ないのだと頬はひとしく
緋色に染まる

田中ましろ



Project Uta-Lover

<http://www.utalover.com/>

短歌の募集は随時行っています。
お気軽に上記 URL よりご投稿ください。
投稿短歌より写真作品を制作し、
次号に掲載させていただきます。

うたらばvol.01【夕刻】

<http://p.booklog.jp/book/38868>

企画・詩・紙面デザイン：田中ましる@うたらば
プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/utalover/profile>

※本誌は電子書籍用に最適化された冊子ではありません。
正式PDF版は下記URLでご確認ください。
<http://www.utalover.com/pdf/utalover00.pdf>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38868>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38868>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.